

# 高齢者施設・障害者施設の 感染対策事例集

---

講習動画 管理体制

---

東京iCDC専門家ボード  
感染制御チーム

東京医療保健大学大学院  
菅原 えりさ 先生



# 感染対策における管理体制

- 感染対策を成功させるには、施設内の様々な職種がその意図を理解して同じ行動をとることが重要で、それを実現するには全体をまとめる管理体制が鍵を握る。
- 施設内感染対策の基本の一つは、病原菌やウイルスを「持ち込まない」ことで、持ち込むリスクの高い職員を含む外部からの来訪者の健康管理は、管理体制において重要な対応の一つである。
- 職員は自身の体調が不良な場合は、出勤しないか途中で職場を離れることを徹底する必要があり、これらのルール作りとその遵守を見守るのが「管理体制」である。
- 新型コロナウイルス感染症対応で学んだ「管理体制」を今後も生かしたい。

# 職員の健康観察記録は管理者が管理します

## × 間違った事例

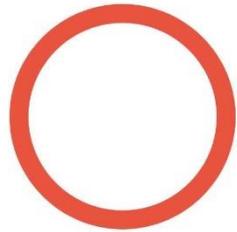
職員の健康観察記録を自己記載のみとしていた。また、出勤日の状況のみを記載し、休みの日の健康観察を行っていなかった。

## ○ 正しい事例

職員の健康観察結果をチェックする担当者を決め、担当者は対応を要する状況かどうかを速やかに判断するようにする。勤務前、勤務中、休日ともに体調不良を感じたなら、すぐに担当者に報告する必要がある。



# 解説！ 職員の健康観察記録は管理者が管理します



健康観察は、個人に任せるのではなく、管理者が明確に管理する仕組みを作り徹底させることが重要。



- 平時から「報告・連絡・相談」体制を徹底していることが重要。
- 危機管理の基本は、風通しのよい組織体制であること。

# 感染兆候のある利用者の対応方法を明確にします

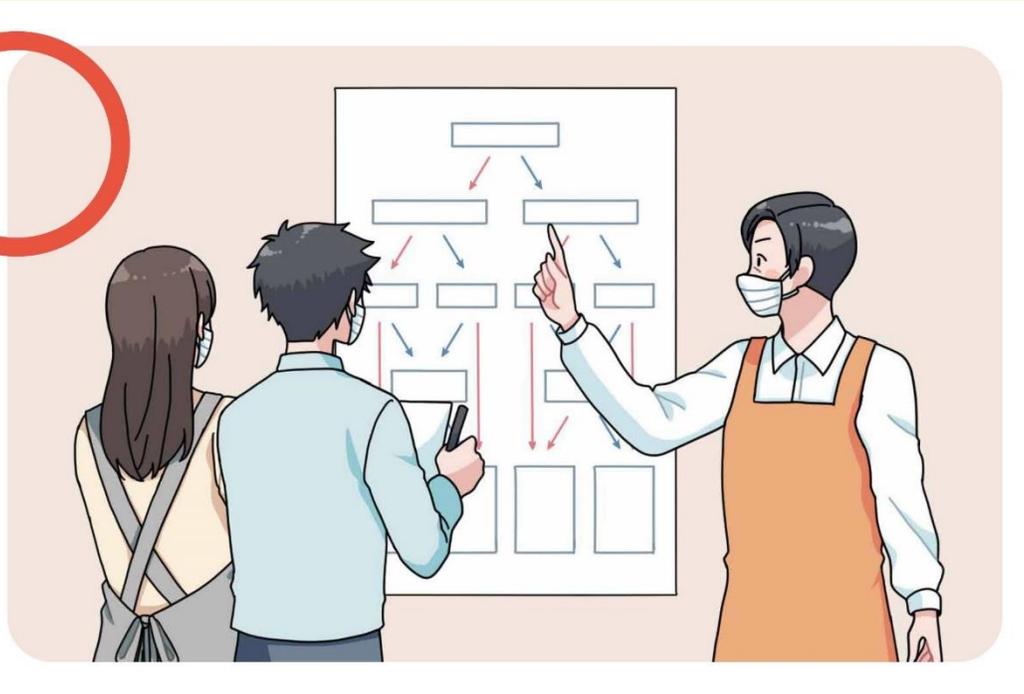
## ✕ 間違った事例

新型コロナウイルス感染症の対応は決まっているが、それ以外の感染症の対応方法が明確になっていない。

## ○ 正しい事例

発熱、呼吸器症状、下痢、おう吐などの感染症を疑う入所者が発生した際の対応を明文化し、誰でも同じように対応できるようにフローチャートなどを作成する。

ルール



# 解説！ 感染兆候のある利用者の対応方法を明確にしましょう

ルール



- 発熱、呼吸器症状、下痢、おう吐のような症状は、多くの人に伝播する恐れのある感染症の場合が多い。
- よって、有症状者を発見したら、決められたルートに則り速やかに報告することが必要。
- その初動体制をあらかじめ決めておくのが「管理体制」の重要なポイント

- 感染症は新型コロナウイルス感染症だけではない。
- 感染疑い入所者が発生した場合の対応を明文化する場合、公的機関のガイドラインを参考にしたり、必要に応じて専門家の支援を受けることなどが理想的。
- 入所者だけでなく、感染が疑わしい職員が発生した場合についても同様。

# まとめ

- 感染対策を成功させるには、施設内の様々な職種がその意図を理解して同じ行動をとることが重要で、それを実現するには全体をまとめる管理体制が鍵を握る。
- 感染対策を担う担当者を決めて、施設内で決めたルールが実行されているか見守っていく体制を目指す。
- 施設長はその体制の維持と継続そして感染対策担当者の支援を行うことが重要。
- 新型コロナウイルス感染症対応で学んだ「管理体制」を今後も生かしたい。